



(酒田)

地帯に位置し、平田川西岸に面する河間低地の微高地、標高約六mに立地する。県営圃場整備事業に伴い発掘調査が行なわれた。調査面積は四五四六㎡で、一〇世紀前後と一三世紀前半から江戸時代後期までの多数の土坑のほか、井戸、溝を検出した。調査地には寺院跡の伝承があり、溝はその施設の区画に関係

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
手蔵田一〇遺跡は、酒田市街地東方約六・五km、庄内平野の水田

- 1 所在地 山形県酒田市大字手蔵田字村上
- 2 調査期間 一九八七年(昭62) 四月～九月
- 3 発掘機関 山形県教育委員会
- 4 調査担当者 名和達朗・斎藤克典
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～近世

## 山形・手蔵田一〇遺跡

てぐらだ

する可能性もある。遺物には、赤焼土器を中心とする土器、陶磁器、木製品がある。

木簡は、調査区内を北側から西側方向へ弧状にめぐる幅六・二m深さ七〇cmの溝SD五五九から一点出土した。共存遺物には一六世紀後半の陶磁器がある。このほか、長方形の材の一端の左右に切り込みをもつ木簡状木製品が、不整楕円形の土坑SK一一五から二点、長方形の土坑SK七六から五点、計七点出土している。

8 木簡の积文・内容

(1) 「【小カ】昌正正正」

147×34×3 011

習書木簡と考えられる。文字は、片面のみにある。墨痕はわずかに確認できる程度で、判読できない部分もある。

9 関係文献  
釈読に際しては、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

山形県教育委員会『手蔵田一〇・一一遺跡発掘調査報告書』(一九八八年)



(名和達朗(山形県教育庁))